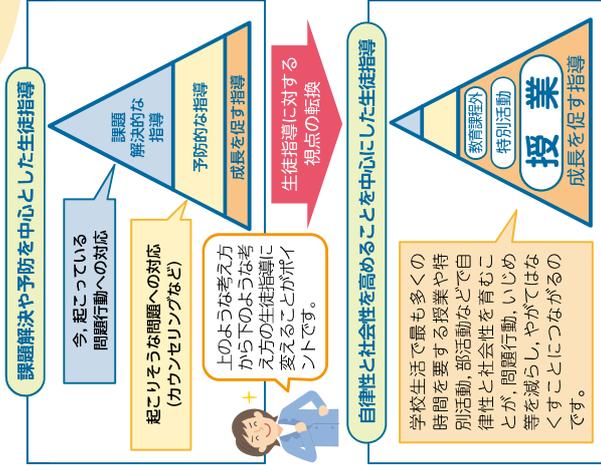


成長を促す生徒指導

成長を促す生徒指導へ～視点の転換～



問題行動やいじめへの対応が大変よ、解決策はないんだろうか。

目的の問題を解決することはとても大切なことよ。がんばって！ だけど、それだけでは、また別の問題が起きるだけよ。

いったい、どうすればいいんだ？

授業と特別活動で児童生徒に自律性と社会性を育てるのよ。だって学校生活では授業の時間が一番長いから…ね。

授業や特別活動で、児童生徒の自律性や社会性を高めることが、結果として学校生活全般を落ち着かせ、問題行動やいじめの少ない学校へと変わると考えています。

どのような視点をもって学級経営、教科経営をすることが、児童生徒の自律性や社会性を育むのでしょうか。

成長を促す生徒指導へ～4つの視点で自律性・社会性の育成～

授業や特別活動などを通して自律性や社会性を育むためには、次の4つの視点が大切です。

- ① 目的意識をもたせているか
- ② 自己決定をさせているか
- ③ それぞれの児童生徒の個性・能力を發揮させ、認めているか
- ④ 協同性を發揮させているか

授業や特別活動などの現状をしっかりと見つめて、改善を図っていく必要があるのです。

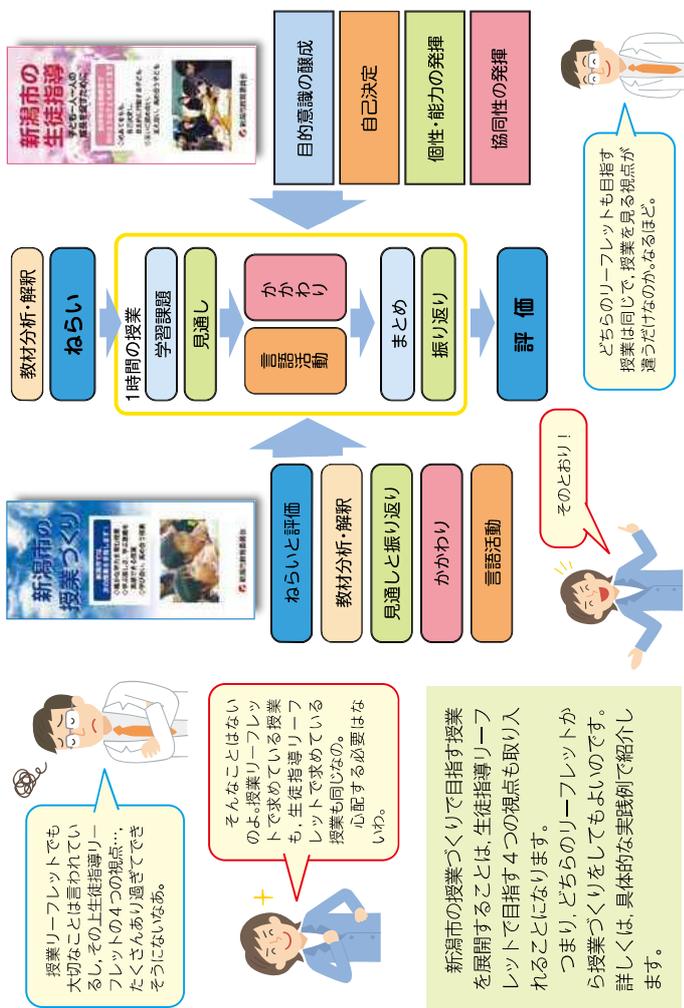
成長を促す生徒指導

自立 社会性
子どもを伸ばす4つの視点
自律性 個性・能力
自己決定 協同性
目的意識

授業や特別活動などで、この4つの視点を意識して、具体的に指導することです。

授業や特別活動をどのようにすれば、自律性や社会性を育む生徒指導が実現できるのですか？

授業で生徒指導！～リーフレットの関連から～



授業リーフレットでも大切なことは言われているし、その上生徒指導リーフレットの4つの視点…たくさんあり過ぎてできそうにないなあ。

そんなことはないよ。授業リーフレットで求めている授業も、生徒指導リーフレットで求めている授業も同じなのよ。心配する必要はないわ。

特別活動で生徒指導！～児童生徒が自らの手で～

「授業で生徒指導！」の意味は分かっただけ、特別活動で生徒指導を重めるよでは何？

特別活動では、子どもたち自身の問題(学級や学校など)をみんなで解決したり、自分たちの手でよりよい学級づくりや学校づくりを進めたりすることができるよね。それがよさか？

どうなの？

そうだね。授業では子どもが自ら課題や方法を決めることが難しいよね。それが特別活動では、子ども自らが目的を思いついたり、自己決定したり、教科の授業以上に個性・能力や協同性を發揮したりすることが期待できるんだ。つまり活動のプロセスを大事にする特別活動は、成長を促す生徒指導にはびびりなんだよ。

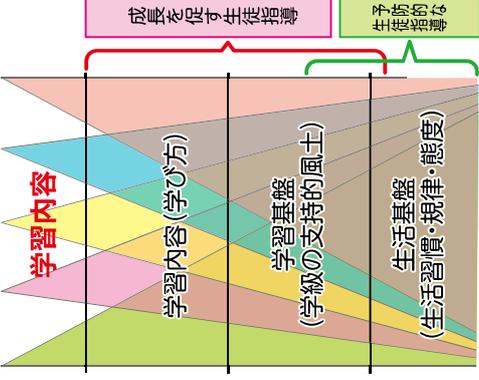
成長を促す生徒指導にとって、子どもたちが主体となって行う特別活動はとっても重要なことなんよ。

特別活動では、児童生徒が自分たちの問題や課題を自分たちの手で解決しようという計画し、実践し、振り返ることができるよ。ここがどちらかと言えば教師主導の授業とは大きく違う点です。特別活動では、児童生徒が「目的意識」を明確にし、様々な場で「自己決定」を行い、それぞれの「個性・能力」を發揮し、認められ、みんなが「協同性」を發揮することが期待されるのです。

成長を促す生徒指導の授業実践

～やり切る視点①～

1校時 2校時 3校時 4校時 5校時
数学 国語 美術 体育 理科



成長を促す生徒指導について、何となく分かったんだけど、具体的な授業場面でどうすればいいんだろう？

先生が、学習課題を明確にして授業をすすめることは、多くの生徒が、目的意識をはっきりさせて取り組むことにつながるのよ！

右の図をみてください。先生の、理科指導では学習内容を教えているわけではなく、よき学び方を身に付けさせたり、学級の支持的風土を育てたり、規律や態度を育てたりして、落ちぶれていた授業ができていますよ。

それに、ホワイトボードを使って、話し合いをしているとき、先生は、いつも上手に生徒をほめてその気にさせてるでしょ、あれよ！先生はもうやっちゃってるじゃない。

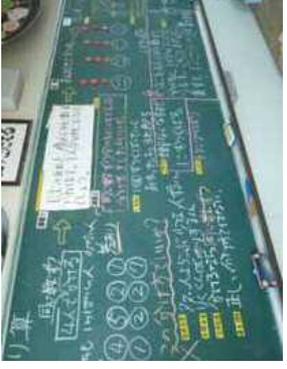
なんだ、そういうことか！それは意識してやっていたことだよ。よかった！

児童生徒に学習方法(学び方)を身に付けさせたり、学級の支持的風土をつくらせたりすることは、授業者がそれらを意識して、**継続しない**と**表現しない**のです。

取組を意識することで、「目的意識を醸成」したり、「自己決定」を促したり、「個性・能力を発揮」させたり、「協同性を発揮」させたりするのです。

成長を促す生徒指導の授業実践

～やり切る視点②～



ホワイトボードを使って話し合う

成長を促す生徒指導を進めるに当たって、具体的な方策をいくつか紹介させていただきます。

学校支援課では次の3つを特に大切にしています。

- 追求意欲の高まる学習課題と正対したまごめ**
→目的意識の醸成、自己決定を促す。
- 協同性が発揮される話し合いやグループ活動**
→個性・能力の発揮を促す。
- 児童生徒が主体となった活動(特別活動など)**
→より成長を促す生徒指導の実現が図れる。

やり切るためには、取組を「**選択し集ませる**」ことが大切です。学校や学級の事態を把握し、**全職員が協同性**を発揮して取り組ましますよ。

つまり、学習方法(学び方)、学習基盤(支持的風土)、生活基盤(生活習慣、規律、態度)のどこに重点をかけるのか、取組は学習課題と正対したまごめ、話し合いやグループ活動などどこに重点をかけるのか選択し、**やり切る**ことが**最も大切**です。

成長を促す生徒指導をスタートするに当たって

成長を促す生徒指導をスタートするに当たって、最初に取り組むことは児童生徒が安心して学級で過ごすことができるようにすることです。これは、教師が必ずやり切らなくてはならないことです。

そのためには、いろんな取組があるんだと思うけど、特に大切なことは何？

子どもたちに積極的にかわかり、良好な人間関係を築きながら、次の2つを使うことです。
 ○人を傷つける言葉や行動を許さないこと ○人の話は最後まできちんと聞くこと

教師には子どももの良くない言動を見逃さない態度のよいアンテナが必要ですね。

子どもたちは教師がどのような対応をするのかをしっかりと見ています。

この2つをやり切ることは、言い換えれば「一人一人の子どもをしっかりと守り、大切にすること」教師の決意をメッセージとして子どもたちに伝えることです。
 このことは、年度当初、子どもたちに出会った瞬間から、徹底する必要があります。しばらく様子を見てからという内容ではありません。
 学校全体で意識して取り組みましょう。

確かに、これがきちんと指導できている学級は、落ちついた学級になってるわ。

生徒指導ガイドブック ～実践例の見方(授業編)～

この後に掲載されている実践例(授業編)の見方を紹介します。

このページで重点を付けている観点を

重点を付けている観点から具体的に授業を組み立てた例示

自己決定を促す

児童が主体的に学習に取り組む

自己決定を促す

児童が主体的に学習に取り組む

生徒指導リーフレットから見た授業づくり

授業リーフレットから見た授業づくり

授業の様子は板書を見るとよく分かりますね。